

# あたらしくはいった本 (令和2年12月 貸出開始資料から)

- 小説 十の輪をくぐる(辻堂ゆめ/著) 2020年の恋人たち(島本理生/著) ブラック・ショーマンと名もなき町の殺人(東野圭吾/著) 北条五代 上・下(火坂雅志、伊東潤/著) 教室に並んだ背表紙(相沢沙呼/著) 今度生まれたら(内館牧子/著) 傍聴者(折原一/著) お龍のいない夜(風野真知雄/著) 今夜(小野寺史宜/著) 悪魔を殺した男(神永学/著) サンクチュアリ(岩城けい/著) アルマ(ル・クレジオ/著) ミルクマン(アンナ・バーズ/著)
- 随筆・詩などの文学 谷崎潤一郎を知っていますか(阿刀田高/著) 日曜日は青い蜥蜴(恩田陸/著) 美麗島プリズム紀行(乃南アサ/著) コラムニストになりたかった(中野翠/著) 夜景座生まれ(最果タビ/著)
- その他の本 全国厄除け郷土玩具(中村浩訳/著) 旅する神々(神崎宣武/著) こどもホスピスの奇跡(石井光太/著) フライパンパスタ(若山曜子/著) デス・ゾーン(河野啓/著) きらめくバルバスプランツ(竹田薫/著) 地上に星座をつくる(石川直樹/著)



『十の輪をくぐる』  
辻堂ゆめ/著  
小学館



『2020年の恋人たち』  
島本理生/著  
中央公論新社



『アルマ』  
ル・クレジオ/著  
作品社

●新型コロナウイルス感染拡大防止のため、来館の際はマスク着用などのご協力をお願いします。

## みんなの としょかん



市民図書館

TEL (921) 4646

FAX (921) 4896

<http://www.library.dazaifu.fukuoka.jp/>

## としょかんカレンダー

令和3年	日	月	火	水	木	金	土
2		①	2	3	4	5	6
	7	⑧	9	10	11	12	13
	14	⑮	16	17	18	19	20
	21	⑳	㉑	㉒	㉓	26	27
	28						

○のついた日は休館日

金・土曜日(祝日を除く)は午後7時まで開館しています。

## 江戸時代のお願ひ——悪病の流行と神への畏れ

「太宰府市史 近世資料編」には、観世音寺触の村々から郡役所へ出された願書を写した、「雑記」と呼ばれる資料が収録されています。触とは数十の村々を合わせた江戸時代の行政区画で、大庄屋が取り仕切り、触内の各村から郡方への願書は、大庄屋を通してやり取りが行われました。

さて「雑記」の目次には、「悪病流行につき大神楽願ひの事」と「願成就踊り願ひの事」という二つの項目が並んでいます。前者は、文久2(1862)年閏8月に大佐野村から提出されたもので、「大神楽」は太神楽(獅子舞・曲芸など)のことと思われます。内容は、6月中旬(旧暦)から痢病がはやり、氏神(大佐野3丁目の地祇神社)へ願かけに太神楽を執行したらピタリと治まったので、願ほどのき太神楽を奉納したいというもので、願ひは郡役所に聞き届けられたことが書き添えられています。

後者は、瓦田村(現大野城市)から同年正月に提出されています。その内容は、3年前に悪病が村内に流行した折、氏神(瓦田2丁目の地祇神社)に立願して鎮まったが、「時節柄お願ひも申し上げ難く、これまで打ち過ぎ」てしまい願ほどのきをしなかつた。このことが神意に叶わず昨年の夏からまた病が流行してしまつた。よつて願ほどのきとしての踊り一座興行をお許しください、とのこと、郡方役人から「よんどころ無き次



～公文書館だより②～

がなされていたであろうことも関係すると思われまふ。とはいへ、悪病の流行はいつの時代の社会にとつても緊急事態には違ひなく、その原因が疫神や鬼の仕業と考えられていた当時、地域の氏神に悪病の退散を祈ることは人々にとつて重要な対抗策であり、当局としても特別に認めざるをえない習俗だったといえます。

「第一」なので「猥の義これ無く取り締まり」の上興行を許可する旨が大庄屋へ伝えられました。この2通の願書で興味深いのは、最後の方に「費がましき義」(経費が掛かりそうなこと)が無いよう「宰判」(管理)いたしますから、という一文が共通して見られることです。特に瓦田村の踊り興行の場合は、「容易に差し免しがたい」けれどももしようがない、と郡方役人がしぶしぶ認められた様子がわかります。瓦田村が「時節柄」と願ほどのきをいったん保留してしまつたのは、安政期以降の世相の不穏な空気を考慮してのことだったかもしれません。また当時、福岡藩では窮乏する財政を立て直すため、大倭約が藩政改革の一つに掲げられていた時期でもあり、村々でも祭礼など「費がましき義」に対してはより厳しく取り締まり

公文書館 藤田 理子